



➔ 6月1日（金） Ethan Raker 氏 講演会 ～ハーバード大学博士課程生による講演会～

Sociology: Research on the Impact of Environmental Changes and Climate Change on certain Populations in the U. S. (仮)

ハーバード大学博士課程に在籍する新進気鋭の社会学者、Ethan Raker 氏が来日し、日比谷高校で講演を行ってくださいます。Raker 氏はコロンビア大学を卒業し、現在ハーバード大学博士課程で研究活動を行なっています。専門は社会学で、まさに現代アメリカが抱える諸問題について、最新の研究を行っており、TA としてハーバード大生にも指導を行っています。

査考前の忙しい時期ですが、このようなチャンスはめったにありません。積極的に参加してください。

日時	6月1日（月）15時30分～17時00分
場所	LL 教室
申込方法	LL 教室準備室前の申し込み票にクラス・氏名を記入する。 ※講演の内容、会場の都合上 40 名前後限定とします。
使用言語	英語

※ Ethan Raker (Harvard 大学 HP より)



Doctoral Student in Sociology

Research Interests: Race, Ethnicity and Migration; Neighborhood Effects; Social Inequality; Quantitative and Mixed methods

Ethan Raker is a Doctoral Student in Sociology at Harvard University. Born and raised in Indianapolis, he completed his undergraduate studies at Columbia University, spending a year as a visiting student at the University of Cambridge. Broadly, Ethan's research interests lie at the intersection of im/migration, urban neighborhoods, and social inequality. His recent work focuses on intergroup relations and immigrant outcomes after natural disasters. As a graduate student, he is interested in expanding upon this work by studying for whom and to what extent sending and receiving contexts matter for immigrants and their children.

➔ 第4期 グローバル委員会始動！ ～委員長と幹部の紹介～

発足から4年目を迎えるグローバル委員会の第1回委員会が開かれました。今年はすでに説明会の段階から、グローバル委員として講演会の取材を行うなど一部の生徒は活動を始めています。今年のグローバル委員会は例年以上に参加者が多く、躍動的で積極性を感じます。

グローバル委員会の活動が充実するためには、各クラスのグローバル委員の活躍が不可欠です。講演会やワークショップに積極的に参加して自分自身を高めていくと同時に、クラスに情報を確実に伝えて、学校全体の取組を積極的なものにしていく重要な役割をもちます。また、講演会等で得たことを、学校全体に還元していくことも大事です。「互いに高めあう」日比谷高校の精神を、グローバル委員会の活動を通じても体現していきましょう！

➔ 「平成29年度韓国姉妹校海外派遣」活動報告会

22日、本校大会議室において「韓国姉妹校海外派遣 活動報告会」が行われました。派遣生徒10名による内容の濃い活動報告が行われました。

まずは、全体の行程が紹介され、短い期間の中でも、濃密な活動内容であったことが伝わってきました。ホストファミリーを受け入れてくださった御家庭の生徒からは、韓国の生徒との日本で過ごした時間について語られました。ディズニーランドに行った時に、アトラクションそのものよりも、園内にあるオブジェや飾りの精巧さに驚いていたという話がありました。また、原宿を共に歩きながら、まさに現代日本を共に感じながら時間を過ごしたという生徒もいました。

韓国で、ホストファミリーの生徒と休日に公園散歩を楽しんだ生徒の話がありました。韓国では公園にデリバリーをしてくれるとのことでした。日本ではなかなか考えられません。

ミチュホル外国語高等学校での活動では、授業に参加し、さまざまな刺激を受けたようです。例えば英語の授業では、「国連の常任理事国について」というトピックでディスカッションがありましたが、ミチュホルの生徒たちはグループ活動の中でも、我先に発言しようとする積極的な態度が見られ、コミュニケーション力の高さが伺えたようです。日比谷生の一人は現状の自分の取組に課題を感じ、「コミュニケーション英語の授業ではしっかり英語で活動しよう」という目標をもったと話してくれました。

来賓の方からも、心温まるコメントをいただきました。日比谷高校出身であり、公益財団法人国際文化フォーラムの水口景子氏からは、Nelson Mandela 氏の、”If you talk to a man in a language he understands, that goes to his head. If you talk to him in his language, that goes to his heart.”というフレーズから、交流をとおして言語の学びを深めていくことの意義についてお話をいただきました。

また、講師としても大変お世話になった同法人の中野敦氏からは、「今回の交流で感じたちょっとした気づきや、ある意味で違和感のようなものをそのままにせず、それを今後の他国との交流の中でどのように活かしていくかを考えてください」というアドバイスをいただきました。

1年生の参加者もたくさん出席して、とても盛大な報告会となりました。初めての韓国ミチュホル外国語高等学校との姉妹校交流は大変有意義なものであったと言えるでしょう。今後もさまざまな場面で、交流で得たものを学校に還元できることが重要です。

今年の交流活動は10月から始まります。今年も充実したものにしていきましょう。尚、6月にはミチュホル外国語高等学校の生徒を受け入れてくださる御家庭を募るお知らせをお渡しします。滞在を受け入れてくださった御家庭の生徒は優先的に派遣生となります。